

計算手順書

特定術式における術後24時間（心臓手術は48時間）以内の予防的抗菌薬投与停止率

1. データシートの作成

- a. 入院手術を対象とする。ステップ1-bに進む。
- b. Infデータ項目詳細に準拠して1手術あたり1レコードでデータシートを作成する。ステップ1-cに進む。
- c. 入院中、退院した患者を問わず在院日数が120日より大きい場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。ステップ1-dへ進む。
- d. 入院中、退院した患者を問わず在院日数が120日以下の場合、ステップ2へ進む。

2. 患者年齢の計算

- a. 患者の年齢は、入院日から生年月日を引いた年(入院時患者年齢)とする。入院日および生年月日の月日部分も考慮して正確な年齢を算出し、ステップ3に進む。

3. 患者年齢のチェック

- a. 患者年齢が18歳未満の場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 患者年齢が18歳以上の場合には、ステップ4に進む。

4. 主たる術式のチェック

- a. 主たる術式が、表5.01、5.02、5.03、~~5.04~~、~~5.05~~、5.06、5.07、~~5.08~~のいずれかに一致しない場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 主たる術式が表5.01、5.02、5.03、~~5.04~~、~~5.05~~、5.06、5.07、~~5.08~~のいずれかに一致する場合には、ステップ5に進む。

5. 手術室死亡のチェック

- a. 手術室死亡がYの場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 手術室死亡がNの場合は、ステップ6に進む。

6. その他の手術状況のチェック

- a. その他の手術状況がYの場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. その他の手術状況がNの場合、ステップ7に進む。

7. 臨床試験・治験ステータスのチェック

- a. 臨床試験・治験ステータスがYの場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 臨床試験・治験対象ステータスがNの場合、ステップ8に進む。

8. 主たる診断のチェック

- a. 主たる診断が表5.09と一致する場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 主たる診断が表5.09と一致しない場合は、ステップ9に進む。

9. 麻酔開始前の感染状況のチェック

- a. 麻酔開始前の感染状況がYの場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 麻酔開始前の感染状況がNの場合、ステップ10に進む。

10. 麻酔開始日のチェック

- a. 麻酔開始日が特定できない場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
- b. 麻酔開始日が特定できる場合、ステップ11に進む。

11. 手術日数の計算

- a. 手術日数は、麻酔開始日から入院日を引いた日数とする(単位：日)。ステップ12に進む。

12. 手術日数のチェック

- a. 手術日数が0日未満の場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 手術日数が0日以上の場合、ステップ13に進む。

13. 皮膚切開日のチェック

- a. 皮膚切開日が特定できない症例の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
- b. 皮膚切開日が特定できる症例の場合、ステップ14に進む。

14. 皮膚切開時刻のチェック

- a. 皮膚切開時刻が特定できない場合、測定カテゴリDに含め、分母対象とする。
- b. 皮膚切開時刻が特定できた場合、ステップ15に進む。

15. 抗菌薬投与状況のチェック

- a. 抗菌薬投与状況が4の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与状況が1または2または3の場合、ステップ16へ進む。

16. 抗菌薬名1～3のチェック

- a. 抗菌薬名1、抗菌薬名2、抗菌薬名3のいずれかが表2.1に一致しない場合、測定カテゴリBに割り当て、分母から除外する。
- b. 抗菌薬名1、抗菌薬名2、抗菌薬名3のすべてが表2.1のいずれかに一致する場合、ステップ17に進む。

17. 抗菌薬投与日1～3のチェック

- a. 抗菌薬投与日1～3のすべてが不明の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与日1～3のいずれかが特定可能な場合、ステップ18に進む。

18. 抗菌薬投与時刻1～3のチェック

- a. 抗菌薬投与時刻1～3のすべてが不明の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与時刻1～3のいずれかが特定可能な場合、ステップ19に進む。

19. 抗菌薬投与経路1～3のチェック

- a. 抗菌薬投与経路1～3のすべてが、3または10の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与経路1～3のいずれかが1または2の場合、ステップ20に進む。

20. 抗菌薬投与タイミングIの計算

- a. 抗菌薬投与日1と抗菌薬投与時刻1がいずれも特定可能な場合、(皮膚切開日+皮膚切開時刻)から(抗菌薬投与日1+抗菌薬投与時刻1)を引いた数(単位：分)を抗菌薬投与タイミングI-1とする。ステップ21-bへ進む。
- b. 抗菌薬投与日3と抗菌薬投与時刻3がいずれも特定可能な場合、(麻酔終了日+麻酔終了時刻)から(抗菌薬投与日3+抗菌薬投与時刻3)を引いた数(単位：分)を抗菌薬投与タイミングI-3とする。ステップ21へ進む。

21. 抗菌薬投与タイミングI-3のチェック

- a. 抗菌薬投与タイミングI-3が特定できない場合、測定カテゴリDに含め、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与タイミングI-3が特定できた場合、ステップ22へ進む。

22. 抗菌薬投与タイミングI-1のチェック

- a. 抗菌薬投与タイミングI-1が特定できない場合、測定カテゴリDに含め、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与タイミングI-1が特定できた場合、ステップ23へ進む。

23. 抗菌薬投与タイミングI-1の再チェック

- a. 抗菌薬投与タイミングI-1が1440分より大きい場合、ステップ24へ進む。
- b. 抗菌薬投与タイミングI-1が1440分以下の場合、ステップ25へ進む。

24. 抗菌薬投与状況のチェック

- a. 抗菌薬投与状況が1または2の場合、測定カテゴリBに割り当て、分母対象外とする。
- b. 抗菌薬投与状況が3または4の場合、ステップ25へ進む。

25. 抗菌薬長期投与理由のチェック

- a. 抗菌薬長期投与理由が4以外の場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
- b. 抗菌薬長期投与理由が4の場合、ステップ26へ進む。

26. 主たる術式の再チェック

- a. 主たる術式が表5.01、5.02のいずれかと一致する場合、ステップ27へ進む。
- b. 主たる術式が表5.01、5.02のいずれとも一致しない場合、ステップ28へ進む。

27. 抗菌薬タイミングI-3の再チェック

- a. 抗菌薬タイミングI-3がマイナス2880分未満の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。ステップ29へ進む。
- b. 抗菌薬タイミングI-3がマイナス2880分以上の場合、測定カテゴリEに割り当て、分子対象とする。ステップ29へ進む。

28. 抗菌薬タイミングI-3の再チェック

- a. 抗菌薬タイミングI-3がマイナス1440分以上の場合、測定カテゴリEに割り当て、分子対象とする。ステップ29へ進む。
- b. 抗菌薬タイミングI-3がマイナス1440分未満の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。ステップ29へ進む。

29. 分母・分子の計算

- a. これまでの測定カテゴリDの総数を求める。ステップ29-bへ進む。
- b. これまでの測定カテゴリEの総数を求める。ステップ29-cへ進む。
- c. 分母＝測定カテゴリDの総数＋測定カテゴリEの総数。ステップ29-dへ進む。
- d. 分子＝測定カテゴリEの総数。終了。